

※学年だよりで使用されている写真や作品の SNS 等への掲載はご遠慮ください。

音楽祭まで残り1週間

音楽祭まで残り1週間となりました。先週、中間考査と領域診断問題を終えた3年生は、音楽祭に向けてラストスパートです。“最後の音楽祭”ということで、どのクラスも昨年以上に気合いが入っています。また、実行委員の声掛けも3年間の成長を感じます。1・2年生の頃は「声出して!」「ちゃんと立って!」「指揮を見て!」とクラスをまとめることに精一杯でしたが、今年は「この入りはもっと抑えて!」「ブレスはここで揃えて!」「次のフレーズに繋げるように!」と音楽的な指示がたくさん飛び交うようになりました。

昨日は、2回目のリハーサルで各クラスの自由曲を披露しましたが、課題曲とともにまだ伸びしろがあると感じました。体育祭の競技と違って合唱には“ゴール”は存在しません。だからこそ、最後の最後まで諦めずに高みを目指してください。そして、悔いのないように本番を迎えてください。

音楽祭当日は、会場にいる全ての人の心に響く歌声を届けてください。“行事に熱い学年”“歌える学年”として、皆さんの最後のステージを心から楽しみしています。



卒業生のお話を聞く会

報告が遅くなりましたが、9月20日土曜日に卒業生3名を招いて、『卒業生のお話を聞く会』を実施しました。現在の高校生活や受験生としての心得など貴重な話を聞くことができました。知っている先輩のリアルな話を知り、これから始まる受験の厳しさや半年後の高校生活に胸を弾ませた人もいたようです。忙しい中、駆けつけてくれた素敵な先輩方ありがとうございました。



Aさん 令和5年度卒業生

Bさん 令和5年度卒業生

Cさん 令和6年度卒業生

輝け！エメラルド！

令和7年度第59回中学生の「税についての作文」において、2名の生徒が優秀な成績を収めました。今週はDさんの作品を紹介します。

町田市教育長賞 Dさん

まちだ納税貯蓄組合連合会 優秀賞 Eさん

『税金が教えてくれたこと』

D

私は小さいころ腎臓の病気で、長いあいだ病院に通っていました。保育園に通っている時から、毎日のように病院に行くことが当たり前の生活でした。検査や薬が苦手でしたが、先生や看護師さんに支えられて少しずつ良くなっていったことを今でも覚えています。

そのとき、子供医療費助成や健康保険のおかげで、母が「ほとんどお金がかからなかったんだよ。」と教えてくれました。当時は意味がよく分かりませんでしたが、今はそれが税金で支えられているからだと理解できるようになりました。

ただ、小さい頃の私は税金に対してあまり良いイメージがありませんでした。お菓子や文房具を買うとき、値札に書いてある金額よりも会計のときに少し高くなっていることがありました。だまされているのか心配になって母に聞いたことがあります。そのときに「これは消費税なんだよ。」と教えられましたが、子供の私は「せっかくのお小遣いが減ってしまう。」と感じて、税金は嫌なものだと思ってしまいました。

しかし病院に通った経験を通して、私の考えは大きく変わりました。もし税金がなかったら、私が受けてきた治療はとても高いお金が必要だったはずですよ。病気がよくなるまで毎日のように病院に通ったので、その費用は家族にとって大きな負担になっていたと思います。けれど実際には、病院代の心配をそれほどしなくてもよく安心して治療を続けることができました。税金があったからこそ、私は健康になれたのだと思います。また、病院には私と同じように治療を受ける人がたくさんいました。その人たちが安心して治療を受けられるのも、やはり税金があるからです。以前は「お小遣いを減らす嫌なもの」と考えていた税金が、実は「みんなの健康を守る大切なもの」だったと気づきました。

学校で学んで、税金は医療だけでなく、教育や道路、消防や警察など、私たちの生活のいろいろなところに使われていることも知りました。私が通っている学校も、教科書や建物の一部は税金で支えられています。こう考えると、税金は自分の生活のすぐそばにあるとても身近なものだと思います。小さいころ病気で苦しかった自分を支えてくれたのは家族や病院の先生たちですが、その陰で大きな土台を作ってくれていたのは税金でした。税金を納めることは、将来の自分や家族、そして知らない誰かを助けることに繋がるのだと感じています。これからは社会を支える一人として関わっていきたいです。